

大子町における、地域活性化プロジェクト

教育・研究

課外活動

ボランティア

地域交流

代表者：理学部理学科 3年 相良 祐希

連携先

大子町教育委員会大子町役場
初原ぼっちの学校周辺の地域の方々

茂野 藍矢（教育学部養護教諭養成課程
1年）

関根 望（教育学部情報文化課程社会
文化コース 1年）

顧問教員

生越達（教育学部・教授）

高木 和音（教育学部学校教育教員養成課程学
校教育コース 言語・社会教育系
社会選修 1年）

参加者

阿部 巧（教育学部学校教育教員養成課程
学校教育コース言語・社会教育
系社会選修 1年）

高山 健（農学部地域環境科学科 1年）

新井 真夏（人文学部人文コミュニケーション
学科 1年）

田口 真帆（教育学部学校教育教員養成課程学
校教育コース言語・社会教育系国
語選修 1年）

飯田 夏望（教育学部学校教育教員養成課程
学校教育コース言語・社会教育
系社会選修 1年）

辻 翔貴（工学部都市システム工学科
1年）

伊坂 志帆（人文学部社会科学科 1年）

寺尾 弘規（工学部機械工学科 1年）

石井 努（工学部知能システム工学科
1年）

仲澤 圭汰（工学部機械工学科 1年）

大竹 夏未（人文学部人文コミュニケーション
学科 1年）

中津 祐也（農学部地域環境科学科 1年）

川井 涼汰（工学部都市システム工学科
1年）

中村 勇太（教育学部学校教育教員養成課程学
校教育コース技術教育系 1年）

川崎 麻貴（教育学部情報文化課程アート文
化コース 1年）

生田目慶都（農学部地域環境科学科 1年）

高地 麻紀（人文学部人文コミュニケーション
学科 1年）

浜迫由紀子（人文学部人文コミュニケーション
学科 1年）

斉藤 瞬（工学部電気電子工学科 1年）

廣瀬 朝美（教育学部養護教諭養成課程
1年）

三瓶 和也（教育学部学校教育教員養成課程
学校教育コース言語・社会教育
系社会選修 1年）

曲山 康平（農学部地域環境科学科 1年）

松本さおり（教育学部学校教育教員養成課程学
校教育コース 理数教育系 理科
選修 1年）

山川 尚子（人文学部社会科学科 1年）

横田 千尋（人文学部人文コミュニケーション
学科 1年）

熱田 佳苗 (教育学部学校教育教員養成課程学校教育コース言語・社会教育系社会選修 2年)

飯野 朋恵 (教育学部学校教育教員養成課程学校教育コース生活科学教育系家庭選修 2年)

飯村真理奈 (教育学部学校教育教員養成課程特別支援教育コース 2年)

郡司 琢磨 (人文学部社会科学科 2年)

佐々木 舞 (教育学部学校教育教員養成課程学校教育コース言語・社会教育系国語選修 2年)

塩谷 仁実 (理学部理学科数学・情報数理コース 2年)

若井田 萌 (教育学部学校教育教員養成課程学校教育コース生活科学教育系家庭選修 2年)

松崎 悠太 (教育学部学校教育教員養成課程学校教育コース言語・社会教育系社会選修 2年)

石橋江莉佳 (教育学部特別支援 3年)

稲葉 和哉 (理学部理学科数学・情報数理コース 3年)

江原 洋樹 (教育学部社会科 3年)

大島 慎司 (人文学部人文コミュニケーション学科 3年)

小野崎崇仁 (理学部理学科数学・情報数理コース 3年)

相良 祐希 (理学部理学科数学・情報数理コース 3年)

須藤 惇士 (教育学部学校教育教員養成課程学校教育コース言語・社会教育系社会選修 3年)

谷川 響 (農学部地域環境科学科 3年)

藤岡みのり (農学部地域環境科学科 3年)

プロジェクトの申請内容

◆プロジェクトの概要

学生の「子どもを集めてキャンプがしたい！」という思いからチームが発足。平成25年現在28名の新入生が新たに加わり、総勢45名となる。大子町の廃校「初原ぼっちの学校」(以下ぼっちの学校)で、平成19～24年度にわたり子どもたちを募集して、キャンプを行った。計画が実現するまで支援して下さった学校関係者や地域の方々、大子町役場の方と関わる中で、キャンプを行うだけでなく大子町やぼっちの学校に貢献したいと考えるようになった。そこで近年では、ぼっちの学校で行うキャンプの他、秋季に行う学生と子どもとの交流企画(以下秋企画)を実施したり、地域の方々との交流をより一層深めたりすることで大子町の地域活性化を図っている。

◆期待される成果

△子どもを対象とした交流企画のなかで、普段の日常にはない「出会い」や「環境」に実際に触れることで子ども、また学生が成長するきっかけとなる。

△地域の方たちとの交流を重ねたり、企画の幅を広げ、大子町または当サークルの知名度を高めることで大子町の活性化につながる。

△地域の方たちと学生の交流だけでなく、地域の方たちどうしの交流(連携)が増えることで大子町の活性化につながる。

プロジェクトの実施概要

◆主な活動内容

【キャンプ】

2泊3日のキャンプを計画段階から、募集、企画、運営を全て学生が行う。

募集する子どもたちは主に、水戸・大子の子どもたちである。

大自然の中で遊んだり、子どもたちが仲良くなるような企画を行ったりする予定であり、計画するにあたり大子と水戸を始め子どもたちの地域を越えた交流や、地域の方々との関わりも視野に入れている。



【秋企画】

大子町の「放課後子ども教室」の子どもたちを招いて、公民館や保健センターにてレクリエーションやお菓子作りなどを行う。

企画は全て学生が考え、放課後子ども教室と連携して計画する。



【地域支援】

上記2つのイベントを行うにあたり、企画のリハーサルや実践を行うために、月一回程度ほどの学校を訪問。

その際準備だけでなく、学校の清掃や修繕などを行ったり、作物の栽培や花を植えるなどの活動を行う。

また積極的に役場や地域の方々を訪問し、キャンプ当日には子どもたちと地域の方々のお宅に行く。

その他、昨年度はお世話になっている地域の方々と一緒に学校の草刈りをしたり、稲刈りを手伝わせていただいたりし、地域との交流を一層深める。



プロジェクトの成果報告

◆今年度得られた成果

【キャンプ】

- ◇「さまーすくーるin大子」と称し、8月に2泊3日でキャンプを実施。
- ◇子どもから85通の応募があり前年度の72通を大きく上回った。
- ◇今年度から広報活動にも力を入れ、当日の活動中の内容やその時に撮影した写真をリアルタイムでSNSやHP (<http://kodofure.jimdo.com/>) で流すことによる、保護者の反響が大きかった。
- ◇キャンプ当日には参加者の保護者や、学校の先生、初原区長や役場の方、ぼっちの学校の卒業生が見学者として訪れた。



【秋企画】

- ◇「放課後子ども教室」との連携で行われる企画。今年度は12月に秋企画を実施し、2月での冬企画の計画を含め計2回行う。
- ◇秋企画では前年比45%増の応募人数、定員もそれに伴い増加させた。



【地域支援】

今年度は地域支援として

- ① 炭窯の修復
- ② 稲刈り
- ③ 地域との共同による学校の清掃活動
- ④ 薪わり
- ⑤ 畑の繁栄

以上5つの活動を実施。

薪わりで割った薪や、昨年度の稲刈りによってできた米はキャンプの企画に利用している。清掃活動や畑の繁栄については学校の景観をより良くすると同時に地域と連携をすることでお互いに関わりあうきっかけとしている。

このような地域支援の実施によって地域の方々からは「若手が不足している大子町にとって、このような活動をしてくれるのは非常に助かっている」といった評価をいただいた。

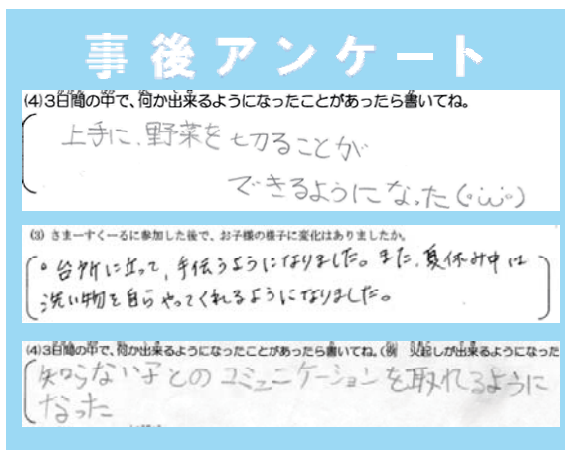




◆外部評価

◇キャンプ実施後、参加者とその保護者を対象にアンケートを実施。

「参加する前よりも自信がついているように見えました。」「大学生になったら子どもたちにキャンプをしてあげよう！と目標が持てました。」といった意見をいただいた。



◇初原区長から「地域と大学生との連携を大事にして地区の繁栄に繋げていきたい。」との意見をいただいた。

◇茨城大学広報誌「iUP (アイアップ) vol.4」
 (<http://www.ibaraki.ac.jp/common/pdf/generalinfo/iup04.pdf>) からの取材を受ける。

◆今後の展望

今年度は新たなつながりも増え、交流に深みを得ることができた。

しかし、新しくできたつながりを今年限りのものにはいけない。

大事なことは新しくできたつながりを継続する、また発展させていくことだと考える。

そして今年1年間の活動を通して、企画への応募者の大幅な増加が見られた。

しかしこれ以上参加者を増やすことは現状として厳しい。

この問題を解決するためにはより多くの人との交流が必要になってくると考える。

来年度は以上の二つを念頭に置いて日々の活動に取り組んでいきたいと思っている。